

令和4年度第1回 安芸太田町総合教育会議 会議録

招集年月日	令和4年5月11日（水）	
招集場所	川・森・文化・交流センター3階 大会議室	
開閉会日時	開 会	令和4年5月11日（水）午前9時30分
	閉 会	令和4年5月11日（水）午前11時00分
出席・欠席委員	出席委員	橋本博明 二見吉康・清胤祐子・池野博文・河本千絵
	欠席委員	川野法順
職務により会議 に出席した者	<p>教育委員会事務局員</p> <p>教育次長 園田 哲也</p> <p>教育課長 瀬川 善博</p> <p>同課 主幹 免田 久美子</p> <p>同課 主幹 山本 康美</p> <p>同課 主幹 清水 裕之</p> <p>同課課長補佐 江川 一康</p> <p>庶務</p> <p>総務課長 長尾 航治</p> <p>同課課長補佐 齊藤 政司</p> <p>同課 係長 川中 志保子</p>	
協議事項	<p>協議</p> <p>1 教育大綱について</p>	

議 事 録

(午前9時30分 開会)

開会宣言

橋本町長あいさつ

二見教育長あいさつ

○総務課長

それでは、早速、協議事項に入らせていただきたいと思います。

安芸太田町総合教育会議設置及び運営規則第6条、この協議の内容ということが書かれております。その中に教育大綱の策定とございます。

先程、町長の方からございましたとおり、教育大綱につきましては町長の方から思いがありますので、この協議事項につきましては、教育大綱、町長の方で司会、進行も含めて宜しくお願いします。

○橋本町長

早速、中身に移らせていただきたいと思います。

先に協議事項ということなので、教育大綱の策定についてということで、資料を用意させていただきました。経緯といいますか、教育大綱というのは、私の理解ということで、皆さんご承知とは思いますが、改めて申し上げさせていただくと、そもそも教育の中身については、教育の中立性というか政治があまり関わってはいけないということで、教育委員会制度というのが出来たというふうに思っております。ただ、そうは言いながらも、何年前だったか覚えてないのですが、当時大阪府知事だったか、大阪市長だったか橋下さんですね、町民の代表である首長の意向というのが反映されない教育行政とうのはいかなものかという議論がある中で、町民代表の首長の意見というか、話をさせていただく機会としてこうした、教育総合会議が出来て、また教育大綱を策定するという仕組みが出来あがったんだと思っております。

そういう中で、町の教育大綱というのが、当時出来ていましたのが平成31年3月14日に大綱を作っておられました。私が就任したのが、令和2年の5月でございますので、教育大綱を作られてからまだ、1～2年というタイミングだったと思います。そういう状況で教育大綱ですから、そう簡単にコロコロ変えるべきものではないのではないかと、就任当時ございましたものですから、当時私としては、この教育大綱を変えるというよりはむしろ、この教育大綱の基で今しばらく教育委員会

の皆さんにご尽力いただいて、本町の教育をリードしていただくべきではないかという判断をさせていただいた覚えがあります。

ただ、少し考え方が変わりましたのが、昨年度上殿小学校の統廃合と申しますか、学校適正配置の議論の中で地域の皆さんの方からも、本町において10年20年の先を見据えた教育政策と申しますか、そういったものが必要でないかというご指摘をいただきました。子どもさんがドンドン減る中でこういった学校適正配置と申しますか、学校の統廃合を行っていくと地域の活力も停滞していくと、そういったことについて町づくりも併せて、10年の見据えた長期計画というものがありますけれどもそれに準じた、より長期的な視点を見据えた教育政策、それが教育大綱だと思うんですが、そういったものをやっぱり作るべきではないかと、指摘をいただきました。もちろん、今の現状の教育大綱というものも、もちろん長期的な視点も踏まえて作っていただいたんだと思いますが、元々その教育大綱も冒頭お話したように首長の意向をある意味反映させるという趣旨でいうと、私も就任させていただいて改めて私なりの教育大綱というのを作るべきではないかと、或いはその中で私なりに長期的な視点を踏まえて、教育大綱というのをお示しするべきではないかなという思いを持たせていただいたのが、きっかけでございました。

もう一つ、申し上げさせていただきますと、教育について私自身は、選挙の中で森の幼稚園というのを盛んにお話をさせていただいて、自然、この本町の特徴である自然を活かした、そういった教育というものを、何か作りあげていきたいなという思いが前々から持っておりまして、まさにそういったことを私らしいというか、教育大綱として作らせていただくのであれば、是非盛り込ませていただいて作らせていただきたいと、そういう思いを昨年から持つにあたりまして、今日改めて教育大綱の改定についてご提案させていただいたところでございます。

改めてペーパーを見ていただければと思うのですが、任期内を目途に、本町のありべき教育、また本町らしい教育、更には本町としてどんな子どもを育てていきたいのかをお示しする、そういう趣旨で教育大綱の策定をしたいと。ついでにはその教育大綱を策定するにあたって私自身、私的諮問機関をまず設置をさせていただいて議論を進めたいなと思っているところでございます。

先ほどから、私らしいという話をしておりましたが、教育においても安芸太田町らしい教育というものはあるんだろうなと感じております。それが、教育大綱の中でも見えるわけですが、一つは、本町らしい教育というのを私自身が考えてみると、繰り返しになりますが、本町らしさというものは、この豊かな自然であり、豊かな自然を活かした教育というのが本町らしい教育に繋がるのかなという思いですね。それが先ほどから申し上げている、具体的なお話としては森の幼稚園のような取り組みであったり、というふうに思っております。

もう一つ、この大綱の中で議論をしたいというか、思いがちょっとあるのが、色んな子どもさんがおられるものですから、一つの方向に向けて育てていくというよりは、子どもさんそれぞれの長所を見据えた、それぞれの個性を伸ばしていく、それが当然この教育としては、求められるんだろうと思うんですが、一方で本町らしさみたいなことを考えるとき、そうは言っても教育を用意する我々として、大人と

して、安芸太田町の大人が、どういう子どもさんに育ててほしいかなということを持っていても不思議じゃないのではないかと、繰り返しになるのですが、色んな個性豊かな子どもさんを育てるのは当たり前なんですけど、そのなかでも教育制度を用意する我々として、せっかく安芸太田町の教育を受けてもらうんだったら、是非こういう特徴というか、こういう特性をもった子どもさんを育てていきたいというのは、お示しをしても良いのではないかと考えておりました、色んな市町の教育大綱を見させていただいて、色んな事があると思うんですね。色んな考え方から中でも特に、是非地域に貢献できるような人の役にたつような子どもさんを育てたいなとか、或いは、感受性豊かな人の痛みが分かるような子どもさんを是非育てたいなとか。或いは、しっかり学力を重視させるそういう教育こそが重要なんだという取り組みもあると思うんですね。その中で、それも是非懇話会の中では皆さんと勉強をしながら、議論していきたいなと思っているんですが、私自身が今の段階で思っているのが、自然を活かしたこの教育とも併せて、自然を活かした教育というのは自然体験の中で色々子どもさん感じる事がたくさんあって、その中で森の幼稚園というのは、自然体験と特に見守りという、予めやってはいけないという事を、大人が前持って、示すのではなくて、色んな失敗も経験してもらいながら、その中で子どもさんの主体性を大切にしていくという、教育なんだと私は理解してまして、それによって何が培われるかという、最終的に自分自身で色々な物事に主体的に取り組んでいくその事によって出来る事が、積み重なって行って自信になってきたとか、或いは自分自身の限界を知ることによって他人と一緒に協力して生活していかなくてはならないとか、そういったことを学んで行って、そうすると結局、自然によって、子どもさんに逞しさみたいなものが培われていくのかなと。

本町で教育を受けていただくと、子どもさんが逞しくなって、最終的には、自分自身がやりたい事を自分で選ぶことが出来るそういう力を蓄えられますよとか。やりたいことを見つけた時に、自分でそのやりたい事を実現するためにはどうすれば出来るのかなという、そういう逞しさというか、言い方はこれから勉強させていただきたいと思いますが、そういう子どもさんを育てられるような教育というのを、是非この安芸太田町で、ご用意をさせていただければなという感じを持っております。

今の教育大綱の中で、十分それはあると言われればそうなのかもしれませんが、改めてそう言った事を、是非次の教育大綱では盛り込みたいなという思いを、私個人としては持っておりました、改めてこれからたたき台を、まずは作らせていただく懇話会を作りたいなと思っています。

教育大綱というのは、町長として作らせていただくものではあるのですが、作るにあたってはですね、当然教育委員の皆様と一緒にやって作りあげていくものだと理解をしております。そういった意味で総合教育会議の場で最終的には、大綱を作るんだと思うんですが、そこに持って行くまでの案をまずは、この懇話会の中で、色々協議していきたいなという思いでありました。構成員をだいたい5人くらい考えておりますが、私的諮問機関としては異例だと思うのですが、私もその懇話会のメンバーに入らせていただいて、一緒に協議をさせてもらえたらなと思っています。

す。メンバーがまだ案なんです、先ほどから申し上げております、森の幼稚園を実現したいということもあるんですが、自然教育の関係者であるとか、森の幼稚園の実際に実践をされている方とか。或いは小中学校の教育関係者、高等教育関係者或いは、社会教育関係者辺りを考えております。開催頻度を年3～4回と書いておりますが、ちょっとどのタイミングで作り上げれば良いのかというのは、まだ無いものですから、任期内ということで1年になるか2年になるかわかりませんが、少しお時間をいただいて、その分納得いくものを是非作らせていただきたいという思いで、あえて後ろの締め切りも書かせてもらっていません。ということでございます。

あと、そういう趣旨でつくるものですから、できれば教育委員の皆様にも、オブザーバー参加いただいてですね、協議の内容についても是非見守っていただければなという思いを持っております。

もう一つありますのは、私自身の思いは先ほど述べたとおりなんです、これまで本町でも、様々な取り組みをずっと継続して力を入れて進めて頂いた事もたくさんあるんだと思っております。その一つが、今の教育長の方からもご紹介いただいた協調学習ですね、これは改めて私も昨年色々と大会に参加させていただく中で、外部の皆さんからは、ご評価をいただいている取り組みなんだろうと思っておりますし、実際様々な実績が上がってきているものだと思っております。ただ、残念ながらそれだけ町外の皆さんには評価いただいているんですが、町内の皆様にはそこまで知られてないのかなと、それは残念な思いを持ちました。是非この懇話会を設置させていただくにあたって、そういったこれまでの取り組みの積み重ねを皆さんにもしっかりと、町内の皆さんにもしっかりと認識していただく場にしたいと思っておりますし、これまで培ってきていただいたものは、新しい教育大綱のなかでもしっかりと継承させていただきたいという思いで、取り組みをさせていただきたいというふうに思っておりますので、その意味でも、教育委員の皆様には、この懇話会の場には是非ご参加いただいて、あのオブザーバーではありますが、ご発言をさせていただく機会、是非作らせていただければなと思っておりますので、ご参加いただければなと思っております。

スケジュールでございますが、後ろの任期というのは作ってないのですが、初回はあまり時間を空けずに、6月か7月ぐらいには開催をさせていただければなと思っております。初回が顔合わせになると思うんですが、是非冒頭の会では、できれば教育長にお時間とっていただいて、これまでの本町の取り組みについて、是非しっかりと懇話会のメンバーの皆様にもお伝えいただけるような形で、お話をいただければなと思います。また、会の進め方なんです、私の勉強を兼ねておることとして、各メンバーの皆さんにそれぞれ各会に、お時間取らせていただいて、それぞれの方々の立場から安芸太田町らしい教育というのを是非、お時間をとって発表いただいて、それについて皆さんにご協議いただく形で何回か進めさせてもらえればという思いでありまして、そういう取り組みを続ける中で、なんとなく教育大綱のたたき台みたいなのが、見えてくればと思っております。長くなりましたが、教育大綱について私の思いを述べさせていただきました。

○清胤教育委員

町長さんのご説明を聞かせて頂いて、安芸太田町らしい教育というものを根底に据えて、教育大綱を作られることに具体的な話なんですけども例えば、子どもが小学校の頃、うちは修道小学校なんですけど、校歌の中に「大丸峯の〜♪」といつも始まるんですけども、大丸峯を見たこともなければ登ったこともない。で、終わるんですよ。3番目の子の時にこのまま、校歌をただスーッと歌うじゃなくて、やっぱりそこに1回登って、どんなところかという体験を通して、校歌を歌うとその故郷を思う心というのが違うんじゃないかと親として思いまして、地域の方に頼んで一緒に登っていただいたら、わりと簡単に登れたんです。その思い出が家族一同の絆にもなってるし、そういったもっと、安芸太田町の自然に触れる大丸峰は豊平の方だったんですけど、例えば校歌に出てくる所は全部社会科見学に行ってみるとか、他の小中学校や高校生が町内にやって来て、体験する川遊びとか、カヤックですとか、ああいう物をしてないんじゃないかと、そういう安芸太田町の素晴らしいところ、校歌に出てくるようなところや、観光の目玉になっているような森林での空気を吸って、ああいうのを授業の一環の中に組み入れて頂いて、そういう事をしないと安芸太田町で生まれ育ったというのが、体験として根付かない気がするんですね。自然の中で生きていくと例えどんな事が起こっても、生きていこうとする力が、底力のようなものが必ずや育まれ、私も都会育ちなんですけど、ご縁あってこの町にお嫁に来て、子ども達をここで育てる事が出来て良かったなと思うのは、例えどんな事が起こることがあるかもしれないけれど、頑張ろうという力が湧いてくる。そういう教育を安芸太田町らしい教育を子ども達に伝えることが出来たらと常々思っておりましたので、どうぞよろしくお願い致します。

○河本教育委員

いま、仰ったような体験という意味では、私もそうなんですけど、最初の子は川遊びとかもしたので、自分でその後釣りに行ったりだとか友達と川で遊んだりとかわりと話していても、だんだん川の様子も変わってきて、川にたどり着くまでにすごく危ないんですよ。石とか木とか、害虫も含めて。だんだん行けなくなって来て、川にある石をどう飛んで良いかというのも、本当だったら自然に身につけているものが、わりと分かってない。この田舎に住んでいながらも。というのがあるので、そういう場を設定したり、遊び方を教えたりというのは、大人が取り組んでということが必要なんだと思います。そういうのがあれば、また次は自分でやってみよう。親も安心して行かせてみることも出来るので、自然教育関係者と書いてあるんですけど、そういうことも遊びの達人じゃないですけど、そんな方も含まれているのかなと思って。地元の方ももちろんいらっしゃると思うのですが、是非そういう事を具体的に作っていくのは大歓迎です。お願いします。

○池野教育委員

よくこういう大綱を作られるときに、ただ、市町名すり替わっただけのものが、よくあるんですが、中身がどこに行っても似たような。そういう意味で安芸太田町らしいという、そこに特化していただければ。資料がございしますが、町内の園児、児童、生徒について、15人前後の実勢で来ていると思います。上殿小学校の時に、統合の時にまた統合の話が出てくるのではないかという話がありますけども、これを見据えて、どうすれば良いかと。定住できる安心して暮らせるまちづくりを続ける必要があるので、どうぞよろしくお願い致します。大いに歓迎でございます。

○二見教育長

これまで、教育委員会としても、色々やってきたと言いつつも、皆さんご意見あったように中々自然の中で体験したり、出来るそういう教育活動が出来ているかといえば、やはりまだ十分ではなかったと思うんですよね。含めて反映していただいたんだと思っています。そういう点で今回諮問会議といいますか、懇話会の中で専門の方のご意見をいただきながら、本町なりのものをつくっていただくことは大変有難い事だと思えますし、私たちも歓迎させていただきたいと思っております。

○総務課長

この安芸太田町らしい教育の在り方懇話会につきましては、役場総務課の方で、事務局を担当させていただきます。先程町長の方からありました通り、スケジュールの通り年3回程度は実施をして行きたいと考えております。また、町長ペーパーの方に教育委員の皆さまも是非オブザーバーで参加していただきたいという事もありますので、また教育委員会事務局を通じて、開催日時、場所ともお知らせをさせていただきたいと思っております。後ほど協議の時間を設けますので、全体送致でご協議いただければと思います。

それでは、一旦教育大綱につきましては終了させていただきますして、次第3報告で学校教育現場の現状について教育委員会事務局の方から説明をお願いします。

○事務局

先ほど、池野委員さんからご提示いただきました、町内の園児児童生徒についてという資料をご覧ください。今年度がスタートして1か月が経ちまして、5月1日時点での本町の児童、生徒数、園児数の方をそちらに載せております。昨年度と比較したんですけど、小中学校の児童、生徒数については3名減、園児数について昨年度より現時点で14名減、というような状況になっております。

○総務課長

園児数が非常に減ってるということで、この辺りは教育委員会議の中でもご報告があったのではないかと思います。非常に子どもの数が減る中で先ほどの大綱も含めてまた、皆さんのご意見も頂戴したいと思います。縦4協議というふうなたてさせていただいているんですが、昨今コロナウイルスの猛威ということもありまして町長部局といたしましても、この対策ということで力を入れてきたところでござい

ます。そういった中で、教育現場の方では様々な努力によって現状の教育推進が図られているのではないかというふうに思っております。こういったことも踏まえまして、教育委員の皆さんと町長のところでざくばらんなご協議をいただければということで、この協議の時間を用意しましたので、何かご意見があれば宜しく願います。

○二見教育長

今の児童、生徒数見させていただいて、実際に昨今 20 名を切る出生数と聞いているんですけども、例えば 4 歳 5 歳児の辺りというのは、トータルでいけば 4 歳児が 33 名 5 歳児が 32 名ですか、この 4 歳児の時も出生数で言えば 30 はいつてなかったです。結局、社会増減として増えているんだと思うんですね。そういう点では確かに全国的に人口は減っているけれども、出生数を上回る在籍数というのは別の形でここは増となっているのはですね、定住促進の施策が少し現れている気がします。それで安心するわけではないんですけども、本町の子どもに対する子育て施策として例えば、保育料の 2 人目からの無料とか或いは本町の医療費の問題とか、ひょっとしたら安芸太田町の小中学校の教育に触れて、憧れて来ていただいている、実際にかなり遠くの方からも親子で引っ越してきて在学しておられるという例もありますので、色んなもの僅かですけども、膨れあがってきていると思っています。

先般、町村レベルの教育長会の会議があったときに聞きますと、全国のかなり休校、閉鎖という形で学校現場は大変厳しいと思います。例えば、コロナに関しては都市部の中にある、町とか村もクラスに 2 人出たら教室を閉じるとか、学校の小さい枠で何名になったら数名で休校にするとか、いうふうな形でかなり厳しい措置をとらざるを得ないというところがあるわけで。本町の場合には、学級を閉じるというのは、ごく僅かなケースでありまして、授業確保をきちっと出来ている点は大変、先生方のご苦勞で、そこまできたんだと思うんですね。そういう点では安心していただける方が多いんじゃないかなと思います。

もう一つは、1 人 1 台タブレット、いわゆる ICT 機器についての充実度とかそれを使えるようになる先生方の為のアドバイザーの ICT の支援員とかというのを、付けていただける点では、本町先生方のスキルもアップしてきているし、それ以上に子どものスキルもアップしているということでは、ICT 教育もそんなに遅れているようではないと感じたんです。それでしっかり、町長からも度々協調学習も含めてですが、どうやって、教育委員会を PR すべきかなと思っています。教育委員さんの方で何かご意見あれば、どうでしょうか。

○清胤教育委員

町長さん仰いました、協調学習の周知、あれは広報とか無線あらゆるツールを使って公開出来るときは町民の皆さんにおいでいただいたり、いかに山育ちがと言ったら言葉が悪いかもしれませんが、ICT 機器に詳しくなったら、暮らしていけるわけですね、コロナ時代で証明されてますけども、大都市に出なくても故郷にいても一流の仕事が出来ていくという時代ですから、そういうところを安芸太田町の教育

は網羅していると思うんです。本当に東大に協力していただいて、一流の協調学習の成果が出ているところですので、そこをもうちょっと一般の町民の方にも知っていただいて、町外にもテレビやラジオや色んなもので、宣伝でもしてより多くの皆さまに町内に移って沢山の子ども達と一緒に教育できるようになればいいなと思いますけども、現時点では、人数が少ないが故にコロナ時代に入っても、そんなに学校閉鎖とか学級閉鎖しないでも、通気は抜群。そういう所をもうちょっとPRしたら安心、安全に繋がると思いますし、1人1人の先生方が一生懸命見て下さる点でも素晴らしい教育がなされていると思いますので、PR、何度も言いました。そのことによって子ども達自身もプライドを持てるのではないかと思うんです。どうかよろしくお願いします。

○池野教育委員

議会だよりで、黎明館の記事が載ってまして、全国各地から新生18名入って、非常に嬉しく思います。こういう過疎地で維持することの難しさもわかりますし、その中で動きが確かな形で表れたこと嬉しく思います。ありがとうございました。

○河本教育委員

アピールの場、学校行事とか、今まではそうだったと思うんですよね、地域に開けた学校のイメージが安芸太田町内の学校、誰でも参加できるイメージだったものが、今、家族でも数名しかいないような感じで、なかなか子ども達の作品であったり、日々の取り組みに触れる機会が少ないと思うんですが、色んなツールを使って情報発信できる良い時代であるので、ホームページとか、私、仕事でよく安芸太田町のホームページを拝見するんですが、そういうところでも目に触れたら、たまに関係なくても空き家情報とかも見たりするので、何となくでも開いたら目に触れるようなものがもう少しあったら良いかなと思います。

○橋本町長

まず、その親御さんに知ってもらわないといけないと思うんです。お聞きすると一応協調学習についても、授業参観として取り入れていただいているという話を聞いていますので、その意味でまずは親御さんにそういう場を知っていただく取り組みが引き続き必要だと。その上で、町民の皆さんにも知っていただく広報を頑張らなきゃいけないなと思いつつながら、そのやっているところを見ないと中々伝わらないのかなと思っていたり、それもそれを見た上で僕らも解説してもらわないと、この凄さが分からないです。言われなければそれを見過ごされる。通り過ぎていくというか。町民の皆さんも今度授業参観解説付きでとか。難しいですかね。

ああやって、普通に生徒同士が役割分担しながら、発表者になったり聞き手側になったり、自分の意見をしっかり言えるようになっていたり、そこでロジックをきちんと展開できるということが普通じゃないんですよというのが、分からない。僕も分からなかったの、そういう工夫もいるのかなと思います。

○二見教育長

前回、1月に全国大会ということで、広く大勢に来ていただいで見てもらおうと思ったら、コロナで急遽オンラインで全てやるという事になって今、学校へ訪問していただく例えば、民生児童委員さんであるとか、学校評議委員さんであるとか或いは他の団体の方に以前は学校へ来て授業を観ていただいた事があったんですけども、今保護者も人数制限なるような状況でありますから、1月にやったのは全国の方も来れないので、インターネットで同時配信をすとか、或いは来られた方も学校の中の別室で観るとかという形がありますので、学校の方とも連携しながら、そういう形で保護者も直接触れたい日には、例えば図書室でそういうのを設置して、みんなで観ていただくとかようなのも出来ますから、そういう形でコロナ時代の学校開放、学校を開くという方法を考えて意図的にPRするという方法を考えなくてはいけないかなと。まずは、保護者の皆さんに最優先で、そういう措置をとりながら観ていただきたい。いうふうに校長とも早急に工夫してみたいと思います。

○橋本町長

一点、先ほどから、園児の数が減っているということですので、まさに役場の側として町づくりと絡めてこれ以上、人が減らない取り組みをとにかく頑張らないといけないと思っています。そういう意味で、ちょっと紹介をさせていただくといつも色々な所で話をするんですが、今だいたい本町お亡くなりになる方が150人くらいで生まれる方が20人、20人切ってるような、だいたいそれくらいですよ。だからほっておいても、120~130人はとにかく減っていくと、やっぱり減るのは高齢者の方が多いんですが、加えて昨年度でいうと入って来られる方がうろ覚えなんです、130とか140くらいですね、それに対して出て行かれる方が190とかということですから、50名くらい減ってきてたと、その一昨年がこれが10名くらいだったんです。差し引いたらですね。だんだんコロナの事もあって田舎を選んでいただく方が増えているからそういう傾向なのかなと思ったら、昨年度はちょっと逆に出る人が多いということで、出る人が多いとか入る人が少なかったと、結果として、そういう状況になった。特に昨年末3月4月が出入りが多いんですよ。本町の引っ越しとかで転勤とか入ったり出たりする人が多いものですから、昨年度は3月が結局30人くらい出る人多かったんで、結果50人くらい出る人が増えたということだったんですが、それで大変残念な思いをしとったら4月はですね逆に例年になく入る方が多くて28人くらい入る人が多かったです。一喜一憂してはいけないんですけども、引き続き入って来られる方も28人の多くは黎明館にかなり子どもさんが入ってもらったものですから、それがウエイト多かったです、それにしても本町に来ていただく方が別に4月が多かったと。ということで、改めて亡くなる方を減らすというのは難しいし、やっぱり小学校、保育園とかいうことを考えると若い世代の方に改めて入って来ていただく、出ていかれない取り組みが必要かなという思いで考えております。とりわけそうは言いながらも、現状で町内の住んでおられる若い方と相対的に少ないものですから、町外から来ていただく取り組みをしなけ

ればいけないという事で、これまでのネックがですね、住む家がないということでした。

去年も50件くらい問い合わせがあったんですが、結局、特に空き家バンク使っていただいた方は20世帯ちょっとですね。それは何でかという、使える空き家が20件ぐらいしか無かったからということなんですよね。ということもあって、改めて住む家を増やさないといけないということで、今年度は特に空き家はとにかく確保しようと思っているんですが、それじゃ間に合わないのでも町営住宅も新しいものを作らせていただいたりとか、空き家バンクの中でも特に程度の悪いものなんかについては町がリフォーム代を出して確保するとか。そういう取り組みをさせていただこうと思っております。

加えて、本町の魅力は向上させていただくということで、学校教育現場の魅力アップですとか引き続き頑張っていたきたいなと思っておりますし、それ以外の住みやすい環境というのは、公共交通の充実ですとか、或いは、医療の充実、そういった部分が引き続き町の方で、頑張っていきたいなと思っておりますのでございます。

僕自身も学校の統廃合がしたくないなと思っておりますので、宜しくお願いします。

○総務課長

資料の説明

○橋本町長

昨年学校適正配置を進めさせていただいて、現状戸河内小学校の状況というのは何かあれば、現場或いは先生方のお気づきのところがあれば、教えていただければと。

○免田主幹

戸河内小学校の状況です。バス通学も始まって、当初スムーズに行くかどうか大変心配しておりました。子ども達の方は4月はかなり張り切って、来てくれていたように思います。馴染めない子もいるかなというふうにも心配もしておりましたけども、緊張こそ見えましたが、概ね張り切っているという状況だったと思います。ただ、4月の最初の保護者参観等では、保護者さんから色々な心配な状況も友達関係の事で相談もたくさんあったという事でそういう事一件、一件学校の方で寄り添いながら頑張ってお対応しているところです。多分ゴールデンウィークをあけて、今から第2スタートというか、という時期に入ってくると思いますので、色々な行事も超えていきながら、一つ一致団結していけると思っています。また引き続きよろしくお願ひいたします。

○総務課長

学校に行けなくなっている子とかはいないですね。

○免田主幹

今はですね、新しく登校したことによって行けなくなっている子というのは聞いておりませんが、ただ、学級にあがりにくくなっている子どもさんがいるというふうに聞いておりました、保護者さんと連携しながら、あと関係機関と連携しながらどういうふうにサポートしていった良いかというのを、今考えている最中でございます。それも教育委員会も一緒にみんなで支援していきたいと思っております。

○橋本町長

学校の先生方はいかがですか。

○免田主幹

学校の先生はとても張り切っております。おかげ様で単式にさせていただいたので十分に子どもに関われるという事で、本当に喜んでどの先生も、生き生きと取り組んでおります。ありがとうございます。

○橋本町長

この前視察に行ったんですが、うちの子も1年生に入らせていただいて、小学校入った時の授業がわりと歌を歌ったりとか、紙芝居をしていただいたりだとか、長男が入った時はそんな事なかった、いきなり小学校の授業ぽかったんですが、特に就学前の子どもさんが就学される時に、つまづかないように、そういう意味では、ご配慮いただいて、そういう取り組みを敢えてしていただいているんですね。

○免田主幹

これはですね、就学前の保育園やこども園との学びと学校に上がったからの学びを繋げるということでスタートカリキュラム。最初の2週間くらいを特別なカリキュラムを組んで学校へ来ることのハードルを少し下げながら、自然に学校に馴染んでいけるようなそんなカリキュラムを特別に組んでおります。これは戸河内小学校だけでなく、どこの町内の小学校全てそのようにしてしまして、いわゆる、小1プロブレムというのをおこらないように、みんなでカリキュラム自体も時間割も少し工夫しながら、いきなり45分座って授業ではなくて少し保育園の要素も入れながら、取り組んでおります。これも県の教育委員会の方から、すごい高い評価をいただいて大学の先生なんかが全国1位だねというふうに、仰ってくださる事を今保育所とも上手い具合に連携が出来ていると思っております。

○橋本町長

あれは、県内でも稀というか当たり前のことではないんですね。

○免田主幹

国の方もこれは、全国的に進めようということで、どの自治体も頑張っているところですが、ただ、うちの町内のように全部の学校がもうそのプログラムが出来てい

て、いつでもどうそ見に来てください。というふうな体制になっている所は中々ないと聞いています。

○橋本町長

こういう取り組みも多分、そう言っていただかないと我々分からないわけです。凄い事だと思うんですね。県内では初めてこういう形でしっかり取り組んでいただいて、多分授業参観来られている親御さんも何となくそのまま通り過ぎているとか、そうだろうなみたいな風に思っているんでないかと思うんです。それはきちんと、折角取り組んでいただいている事でございますので、親御さんにはしっかり分かっていたく努力というののもあって良いかなと思います。

○二見教育長

課長さん、スクールバス関係、ちょっと。

○瀬川教育課長

上殿小学校からこの度、23名の子どもがスクールバスを利用していただいています。そのスクールバスは認定こども園戸河内の前のバス停、廣安のところ、それと上殿小学校前、それと箕角の集会所、この3地区に停留所、駐車させていただいております。

当初1年生が9名今回入学にあたって、スクールバスを利用する際にうちの職員も2週間、バスの乗降する時の部分をサポートさせていただきました。初めのうちはやっぱり、中々スクールバスに乗る時にシートベルトが、中々こう初めは手助けしながら、保護者の方も手助けしながらやっていただきまして、2週間を経つ頃には、スムーズに時間通りにバスも運行して、8時には戸河内小学校には着いて、そこへ小学校の校長先生も出迎えしていただいて、正門で一礼して入っていただくその後校庭で走っていただく形の部分で、スクールバスを運行しています。今のところスムーズに運行してさせていただいている状況でございます。

○二見教育長

時計はどこに設置したんかいね。

○瀬川教育課長

時計は、上殿小学校前のところの校庭のフェンスのところと、箕角の集会所の近く河本組さんの倉庫に時計を設置させていただいてご協力いただいています。2か所設置させていただいています。

○二見教育長

今のところ事故もなく円滑に行っているみたいで地域の皆さんとか、先生方のご協力で出来ていますので、引き続き安全に運行出来るように努めてまいりたいと思います。

○橋本町長

戸河内小学校の状況が聞けて少し安心しました。改めて単式にさせていただいたところも、お話があったようにその分、より子ども達と向き合っただけのような環境を作らなきゃいけないという思いで、させていただきましたので、これからが本番だという話でございましたので、引き続きそちらはよろしくお願ひしたいと思ひます。

○総務課長

ありがとうございます。それでは、事務局よりお知らせですが、今後の総合教育会議に関しましては、定例に行うものに関しましては、年度内にもう一度させていただければと思っております。もちろん諸課題等がまた発生するようでありましたら、教育委員会の方からでもお寄せいただきましたら、会の方は出来ますので、よろしくお願ひいたします。

この後、教育委員会議が予定されてることもありますので、この会に関しましては、以上で閉会とさせていただきます。閉会にあたりまして町長の方からご挨拶をお願ひします。

○橋本町町長

ありがとうございます。今の協議の場でも、もうお話をさせていただいたので付け加えることは特にないのですが、改めて教育大綱の方については、これから議論を始めさせていただいて、先ほど申し上げたような安芸太田町らしい教育というものを、是非具体化できるような物を作らせていただきたいと思っております。

また、大綱をつくるのは私の方で提案させていただきますけども、それを踏まえてどういふ具体的な教育展開をしていただくかというのは、正に教育委員会、或いは教育現場の皆さまにお任せをするわけでございますので、改めてコロナが収束しないままで大変な状況でございますが、引き続きご尽力をいただきますようお願いをさせていただいて、私からの最後の挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願ひ致します。

○総務課長

以上持ちまして、令和4年度、第1回安芸太田町総合教育会議を終了いたします。

どうもありがとうございます。

(午前 11 時 00 分閉会)